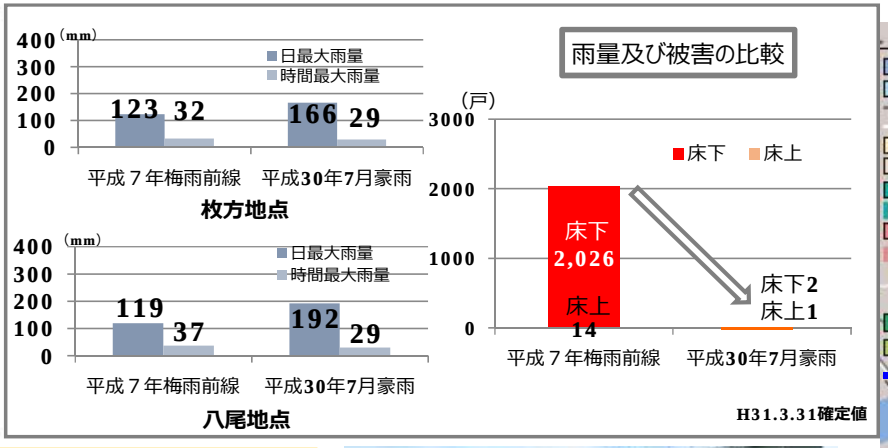
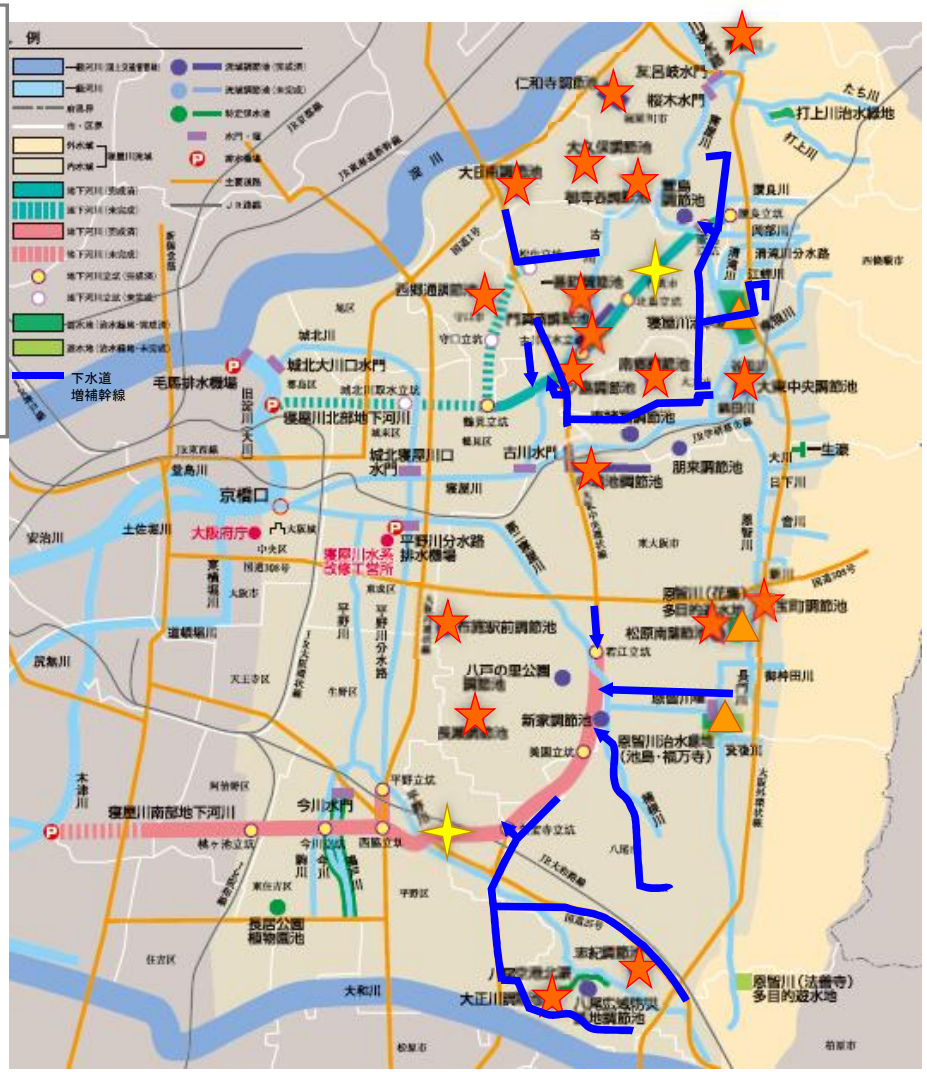
平成３０年７月豪雨に対して、河川・下水道の一体となった取組が効果を発揮（寝屋川流域）【確定値】

○　寝屋川流域では、河川、下水道等が一体となった水害対策を実施しており、下水道増補幹線と連携した地下河川、遊水地、調節池等の貯留施設の整備を推進。

○　平成３０年７月豪雨では、浸水被害のあった平成7年7月梅雨前線に伴う豪雨と同等の雨量が観測されたが、河川・下水道の整備等により、**約２０８．９万m³**の水を貯留し、浸水被害の防止を図ることができた。





貯留量　約208.9万m³　※25mプール　約5,800杯分

供用済全貯留量　520万m³

【外水対策】

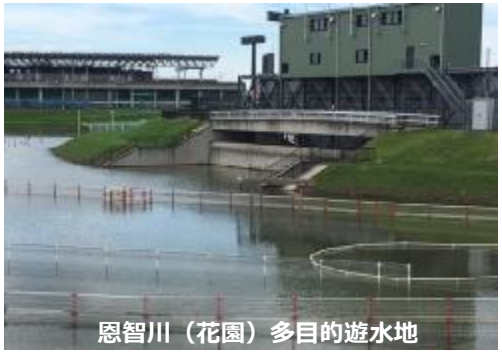
△：遊水地 3箇所　　約137.9万m³

【内水対策】

：地下河川　　約55万m³

：下水道増補幹線　　約6.6万m³

★：調節池 18箇所　　約9.4万m³



※本資料の数値等は、寝屋川流域協議会調べによる。